

留学生と過ごした 10 か月間

特に大きなきっかけは無く、ホストファミリー募集のプリントを貰った時に「やってみたい」という気持ちが自然に出てきた。幸い両親も肯定的に考えてくれ、私に良い刺激を与えてくれるだろうと捉えたのだと思う。実際、私は兄妹が居ないので自分と同じ年代の子と生活を共にしたのは初めてだったし、毎日が新鮮だった。

最初は私も留学生も翻訳アプリを使いながらでない则会話が成り立たなかった。ところが 2,3 か月経ったころには翻訳アプリを使わなくともコミュニケーションが取れるようになり、いつの間にそんなに日本語が上手になったの?!と私含め家族一同が驚くほどであった。

学校では茶道部と弓道部に所属し、日本の文化に深く親しんでいた。茶道の道具や弓道で使った弓もドイツに持ち帰り、ドイツでも茶道や弓道を続けたい!と話していた。

一緒に鎌倉で浴衣を着て観光したり、私の親戚がいる青森でねぶた祭りを見たり、ディズニーランドに行ったりと日本の色々な場所でルイセと思い出を作ることができた。



また、彼女は合唱コンクールや体育祭、文化祭、北海道の研修旅行にも一緒に参加し、留学生なのでいつかは国に帰ってしまうけれども、紛れもないクラスの大切な一員だった。

今でも彼女と連絡を取ったり、部活の合間にみんなでビデオ通話をしたりと交流は続いている。彼女と過ごした 10 か月間はこれから先も忘れることはないだろう。